

2-1-5 営農状況

1) 灌漑面積

現在の灌漑面積は表 2-1-5(1)に示すように、有償事業の計画面積には達しておらず、有償事業の計画灌漑面積 14,404 ha に対して現在の灌漑面積は乾期 10,682 ha で 74%、雨期 6,301 ha で 44%に留まっている。

表 2-1-5 (1) 有償事業計画灌漑面積と現在の灌漑面積の比較

計画及び現況	ポンプ灌漑システム別灌漑面積 (ha)								計	
	イギグ		アムルング		小計		マガピット			
有償事業計画灌漑面積	775	100%	2,172	100%	2,947	100%	11,457	100%	14,404	100%
現在の計画灌漑面積										
乾期	656	85%	1,650	76%	2,306	78%	10,625	93%	12,931	90%
雨期	656	85%	1,650	76%	2,306	78%	7,314	64%	9,620	67%
現在灌漑面積										
乾期 (2002年)	530	68%	1,420	65%	1,950	66%	8,732	76%	10,682	74%
雨期 (2001, 2002年)	489	63%	1,311	60%	1,800	61%	4,501	39%	6,301	44%

(注)

1) 現在の雨期灌漑面積:

イギグ、アムルングポンプ灌漑システム: 2001年雨期実績

マガピットポンプ灌漑システム: 2002年雨期実績

2) 現在の計画灌漑面積は次の面積に基づく。

イギグ、アムルングポンプ灌漑システム: 水利組合登録面積

マガピットポンプ灌漑システム: 水資源開発計画(WRDP)計画面積

現在の灌漑面積が有償事業の計画灌漑面積に達していない大きな原因は次のように説明できる。

<イギグ、アムルングポンプ灌漑システム>

河川の堆砂が進み取水が困難な状態が続いており、ポンプの老朽化と合いまって安定した取水が出来ないこと大きな原因となっている。しかし、幹支線排水路の整備、末端の小用排水路の整備が進めば現在の状況下で灌漑が可能な面積は雨期乾期とも 2,306ha(78%)と NIA は考えており、水利組合はそれを灌漑農地の登録面積としている。灌漑及び排水の困難な地域の分布は図 2-1-5(1)及び(2)に示す。

<マガピットポンプ灌漑システム>

下流部の排水不良が最大の原因である(図 2-1-5(2)参照)。排水不良の改善のために、世銀の水資源開発計画(WRDP)による排水改良事業が実施されている。水資源開発計画によって、乾期灌漑面積は 10,625ha(93%)、雨期灌漑面積は 7,314ha(64%)に拡大すると予測されている。

マガピット灌漑システムでの水資源開発計画(WRDP)の予測効果

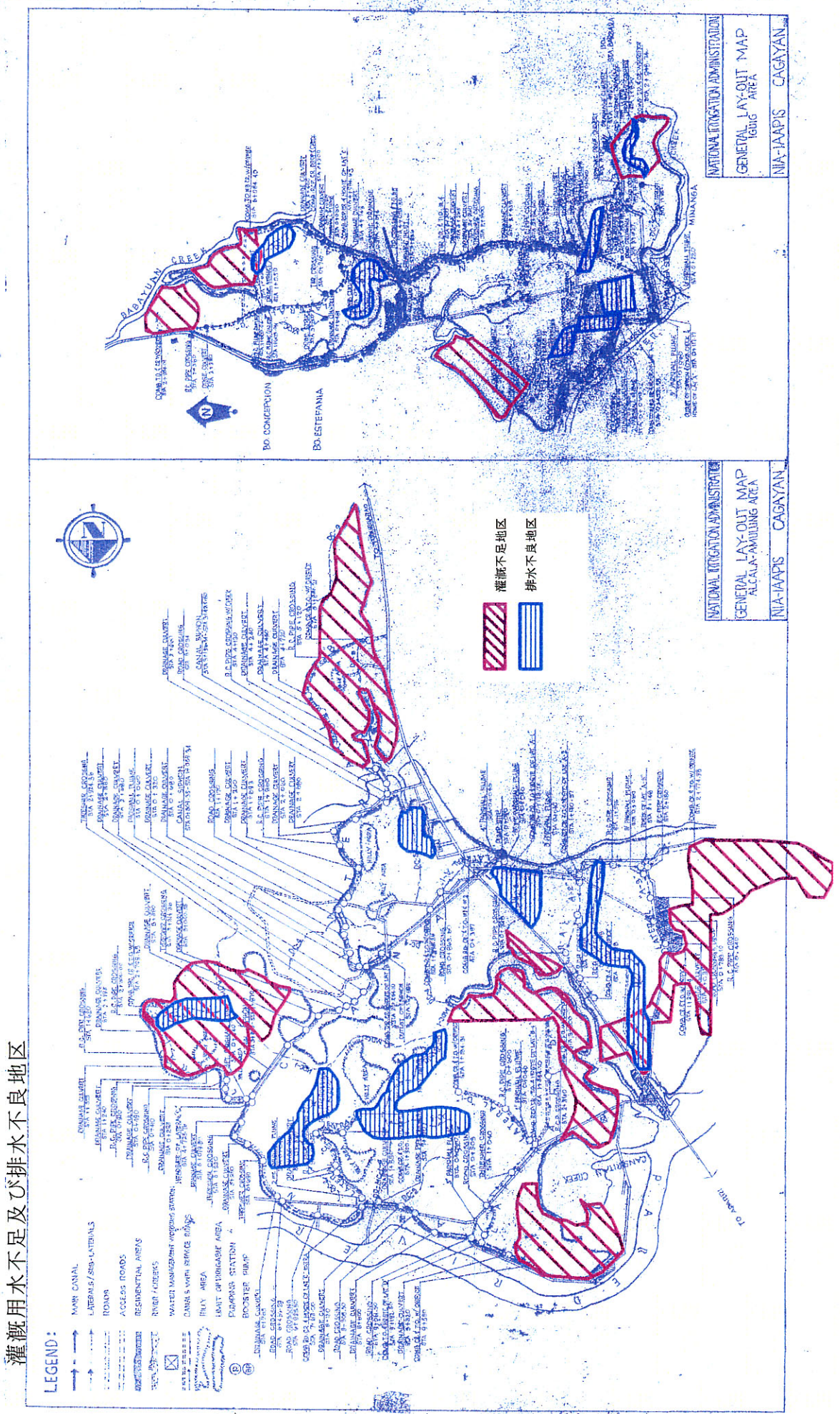
乾期灌漑面積: 過去最大 8,206ha+増分 2,419ha=10,625ha

雨期灌漑面積: 雨期平均 3,058ha+増分 4,256ha=7,314ha

(注) 過去最大及び雨期平均灌漑面積は 1999 年当時の数値

(出典) マガピットポンプ灌漑事務所

図 2-1-5(1) 灌漑用水不足及び排水不良地区(イググ・アムルング)



灌漑用水不足及び排水不良地区